



2021年1月12日

各位

上場会社名 シグマ光機株式会社
 代表者 代表取締役社長 近藤 洋介
 (コード番号 7713)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 石井 康之
 (TEL 03-5638-8221)

2021年5月期第2四半期業績予想と実績の差異 及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

2020年7月10日に公表した2021年5月期第2四半期累計期間(連結・個別)の業績予想と、本日公表の同実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、同じく2020年7月10日に公表した2021年5月期通期(連結・個別)の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 第2四半期業績予想と実績の差異について

2021年5月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績の差異(2020年6月1日～2020年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,920	195	240	150	21.17
実績値(B)	4,054	380	446	320	45.30
増減額(B-A)	134	185	206	170	
増減率(%)	3.4	95.2	86.1	113.9	
(ご参考)前期第2四半期実績(2020年5月期第2四半期)	4,299	397	452	295	41.75

2021年5月期第2四半期個別累計期間の業績予想と実績の差異(2020年6月1日～2020年11月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,470	240	155	21.88
実績値(B)	3,614	436	317	44.89
増減額(B-A)	144	196	162	
増減率(%)	4.2	82.0	105.2	
(ご参考)前期第2四半期実績(2020年5月期第2四半期)	3,772	430	293	41.37

2. 通期業績予想の修正について

2021年5月期通期連結業績予想数値の修正(2020年6月1日～2021年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,510	660	765	510	72.01
今回修正予想(B)	8,485	820	950	670	94.60
増減額(B-A)	△25	160	185	160	
増減率(%)	△0.3	24.2	24.2	31.4	
(ご参考)前期実績(2020年5月期)	8,493	711	840	595	84.10

2021年5月期通期個別業績予想数値の修正(2020年6月1日～2021年5月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,500	730	490	69.18
今回修正予想(B)	7,520	900	640	90.36
増減額(B-A)	20	170	150	
増減率(%)	0.3	23.3	30.6	
(ご参考)前期実績(2020年5月期)	7,377	784	562	79.38

3. 2021年5月期 第2四半期累計期間(連結・個別)業績予想と実績の差異の理由

売上高は、各国の経済政策などを下支えに、世界経済が期初の減速傾向から緩やかな持ち直しの動きが見られ、主にフラットパネルディスプレイ・電子部品・半導体業界の需要が回復基調で推移していることから、前回予想を上回りました。利益面につきましても、産業分野向けの光学素子・薄膜製品や光学システム製品の売上高の増加、当社研究開発投資・設備投資などの一部見直しを含む全社的な経費削減などにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前回予想を上回りました。

4. 2021年5月期 通期(連結・個別)業績予想の修正の理由

世界経済は、足元では回復基調で推移しておりますが、世界的な新型コロナウイルスの感染再拡大などによる下振れリスクが懸念されます。電子部品・半導体業界などの一部の産業分野の研究開発投資・設備投資は回復基調で推移しておりますが、新型コロナウイルスによる経済活動の制限などの影響は大きく、世界経済の回復にはまだ時間を要すると思われます。そのため、連結・個別の下期売上高が期初予想を若干下回ることを見込んで修正した結果、通期の売上高につきましては、個別は期初予想をわずかながら上回る見込みとなりましたが、連結は期初予想をわずかながら下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、下期の売上高が期初予想を下回ることと上期に未実施となっていた設備投資の時期ずれでの実施が見込まれるなどの押し下げ要因はありますが、製品ポートフォリオの改善と引き続き生産の効率化や全社的な経費削減などを推進することにより、下期の各利益項目は期初予想を下回ることが見込まれますが、通期では営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに期初予想から上方修正することといたしました。

※ 上記の業績予想につきましては、当社が発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。又、今後様々な要因により実際の業績などは大きく異なる可能性があります。

以上